

平成22年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	地方バス路線維持事業				開始年度	平成8年度	
基本目標	公共交通の充実				終了年度	未定	
担当課(局)	政策推進課	担当係	総合政策係	記入者	杉田 将也	評価者	森 弘道
21年度決算	15,821	千円	22年度予算	12月補正予算計上予定	千円	事業の実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	364 千円		22年度人件費	362 千円		事業従事者数	0.05 人 0.05 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	宮崎交通㈱が廃止した路線の代替バスを継続運行することにより、交通弱者の移動手段を確保する。
事業の内容	高鍋町から西都市までの4系統3路線の運行委託 今年度から、「宮交シティ～高鍋～木城温泉館湯らら」のうち、「西小T字交差点～木城温泉館湯らら」の区間が廃止となり、新たに運行欠損額の補助を要する。(木城町:高鍋町=88.54:11.46)

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 乗車人員(1便当たり平均)	(運行継続可否の判断基準)
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 補助金	(廃止路線バス運行に係る欠損額を補助)
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	乗車人員(1便当たり平均)	目標値	1.98	1.98	1.98
		実績値	1.98	1.88	
		達成率	100.0%	94.9%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
活動指標	補助金	目標値	15,340	15,821	16,300
		実績値	15,340	15,821	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!

◎事務事業の評価

妥当性(必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	交通弱者の移動手段として本事業は有効であり、市町村以外に受け皿はない。廃止した場合、利用者に対する影響は大きい。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	通院・通学等の交通手段として利用されているが、利用者数減少のため、年々補助金額(うち県費1/2)が増加している。本年度、現行の廃止路線代替バス等運行費補助金の交付路線について、必要性・効率性・妥当性等について検討するためOD調査(委託)を行う。本町にとって真に必要な路線であるか、廃止も含めた見直しを関係市町と協議するとともに、町内巡回バス等への移行措置等についても検討が必要。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	宮崎交通㈱も一部小型バスを導入するなど経費節減に努めているが、利用者の増加が見込めず、欠損額の減額は難しい状況。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	なし。 巡回バス等への移行については、温泉バスや福祉・保険制度等の活用も含めた総合的な検討を行う。その際には、ボランティアやNPO法人等との協働の可能性はある。

事務事業名	地方バス路線維持事業	担当課(局)	政策推進課
-------	------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	<p>◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等</p>	<p>利用者のアンケート調査を含めて、バス対策協議会で協議を重ねることになっているが、西都市及び新富町は現時点で廃止する考えはない。三納代経由西都線は、政治的判断が必要。 本町としては、廃止による財源で町内巡回バスを拡充したいと考えている。</p>	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充				
				現状維持			○	
				縮小				
				廃止				
		廃止	縮小	現状維持	拡充			
コスト								

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	<p>◎3市町の協議が不可欠であり、政治的関与があるため、路線の廃止は難しいと思われる。バスの小型化等を依頼し、コストの削減に努めてもらいたい。また巡回バスと併せて、総合的な交通施策を検討すべきである。</p>
	コスト	現状維持	